



背景・経過

◎生徒数の増加と高止まり

勇舞中学校の生徒数は、平成24年度開校時の481人(13学級)から大きく増加し、令和元年度以降は700人台(21～22学級)で推移、令和12年度頃まで続く見込み

◎35人学級編制の導入拡大

国は令和8年度から中学校35人学級編制を示し、北海道は先行導入済みの中学1年に加え、令和8年度は中学2年、令和9年度は中学3年に拡大予定

◎既存校舎の工夫の限度

既存校舎の内部造作等による工夫の余地は、23学級分の確保が限度

◎特別支援学級開設の必要性

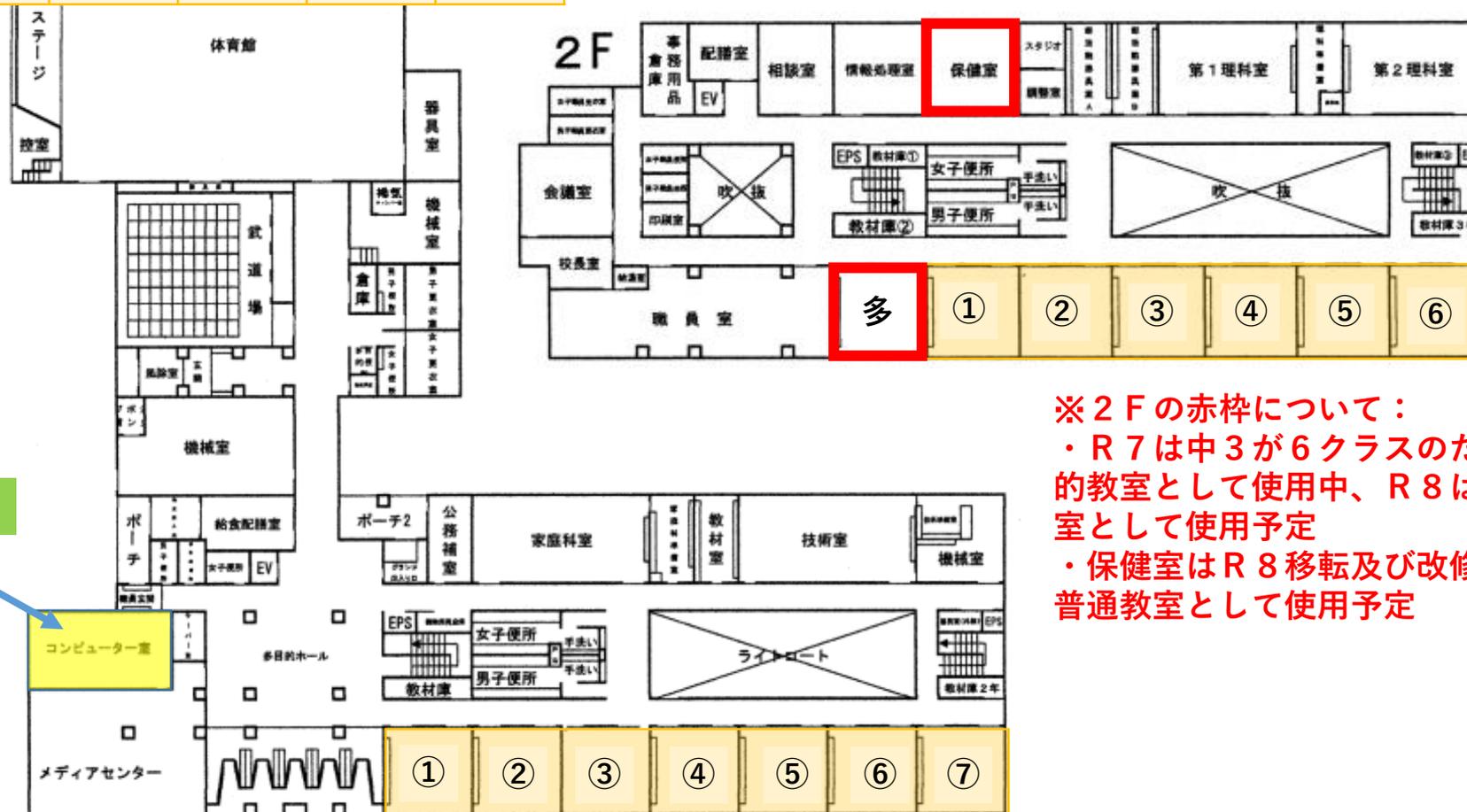
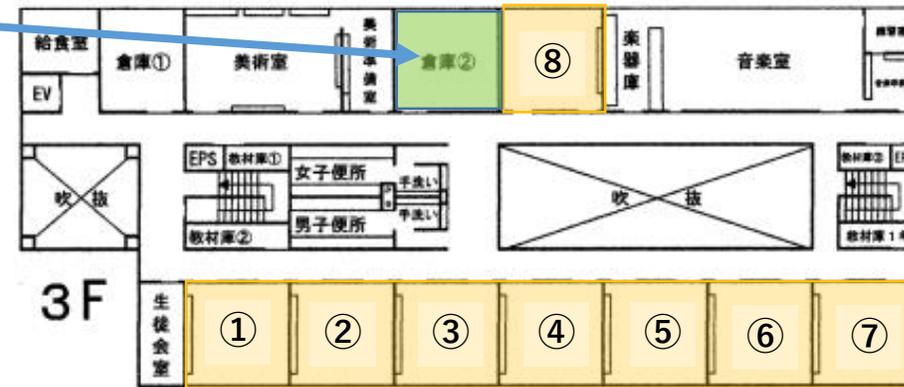
特別支援学級の対象生徒数は、他中学校区よりも多い地域であるが、教室を確保できず市内で唯一配置できていない

既存校舎

令和7年度

	中1	中2	中3	計	特	合計
R 7	8	7	6	21	—	21

習熟度別学習室



校内支援センター

※2Fの赤枠について：
 ・R7は中3が6クラスのため多目的教室として使用中、R8は普通教室として使用予定
 ・保健室はR8移転及び改修により普通教室として使用予定

勇舞中学校区の生徒数の増と、
 中学校における35人学級導入による学級数増を加味した
 人口ビジョンをベースとした学級数の推移

	生徒数計	通常学級数			
		中1	中2	中3	計
R7	763人	8	7	6	21
R8	791人	8	8	7	23
R9	801人	8	8	8	24
R10	811人	8	8	8	24
R11	799人	8	8	8	24
R12	787人	8	8	8	24
R13	714人	6	8	8	22

勇舞中学校に特別支援学級設置の背景

- ◎特別支援学級対象生徒数が他中学校区よりも多い地域である。
- ◎勇舞中校区に居住しながらも、当該校に**特別支援**学級が設置されていないため、校区外(千歳中・富丘中)へ通学を余儀なくされている生徒を、自分の校区に通学できるよう対応を図る必要がある。(必要な学校に設置するという教育委員会方針に沿った対応)

○地域からの声など

勇舞中学校への**特別支援**学級設置の署名活動展開
令和7年度市町連要望

★勇舞中学校校区内の特別支援学級生徒数

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
知的	5	6	8	14	19	19
自閉・情緒	7	10	11	10	11	11
肢体	2	2	2	1	0	1
合計	14	18	21	25	30	31

★勇舞中学校の特別支援学級数推移

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
知的	-	-	1	2	3	3
自閉・情緒	-	-	2	2	2	2
肢体	-	-	1	1	0	1
合計	-	-	4	5	5	6

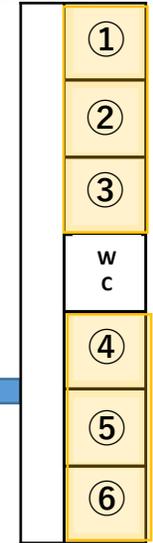
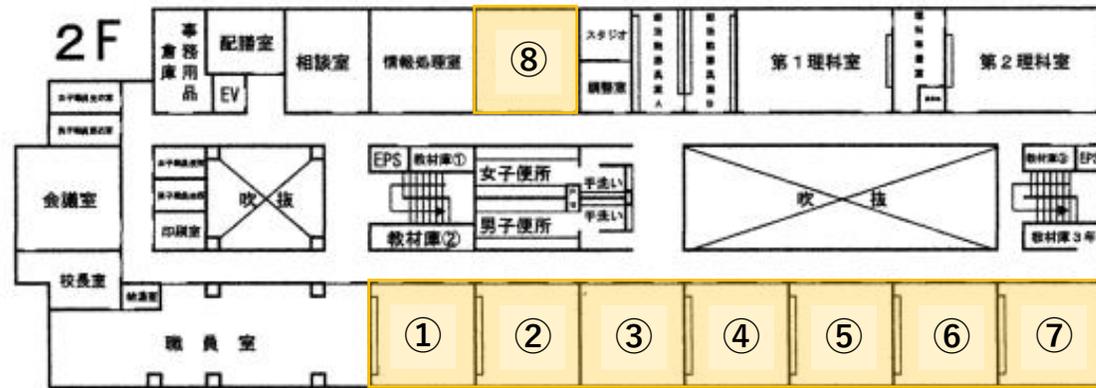
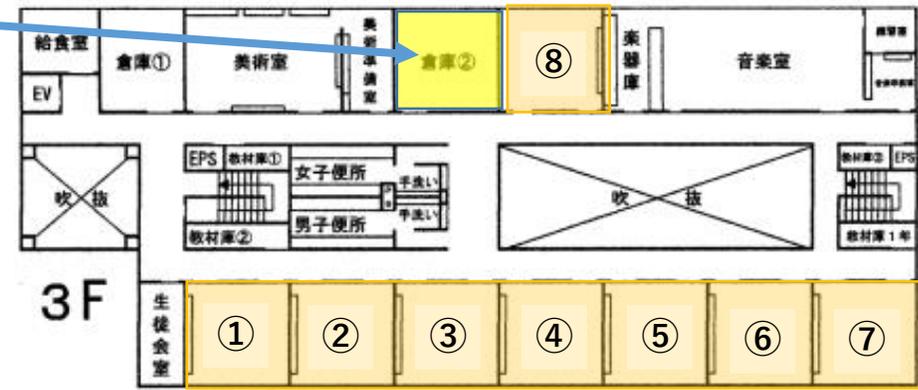
勇舞中学校区に設置する特別支援学級数と人口ビジョンをベースとした通常学級数の合計数の推移

	特別支援学級数	通常学級数				合計
		中1	中2	中3	計	
R7	—	8	7	6	21	21
R8	—	8	8	7	23	23
R9	4	8	8	8	24	28
R10	5	8	8	8	24	29
R11	5	8	8	8	24	29
R12	6	8	8	8	24	30
R13	4	6	8	8	22	26

令和9年度想定

習熟度別学習室

	中1	中2	中3	計	特	合計
R9	8	8	8	24	4	28

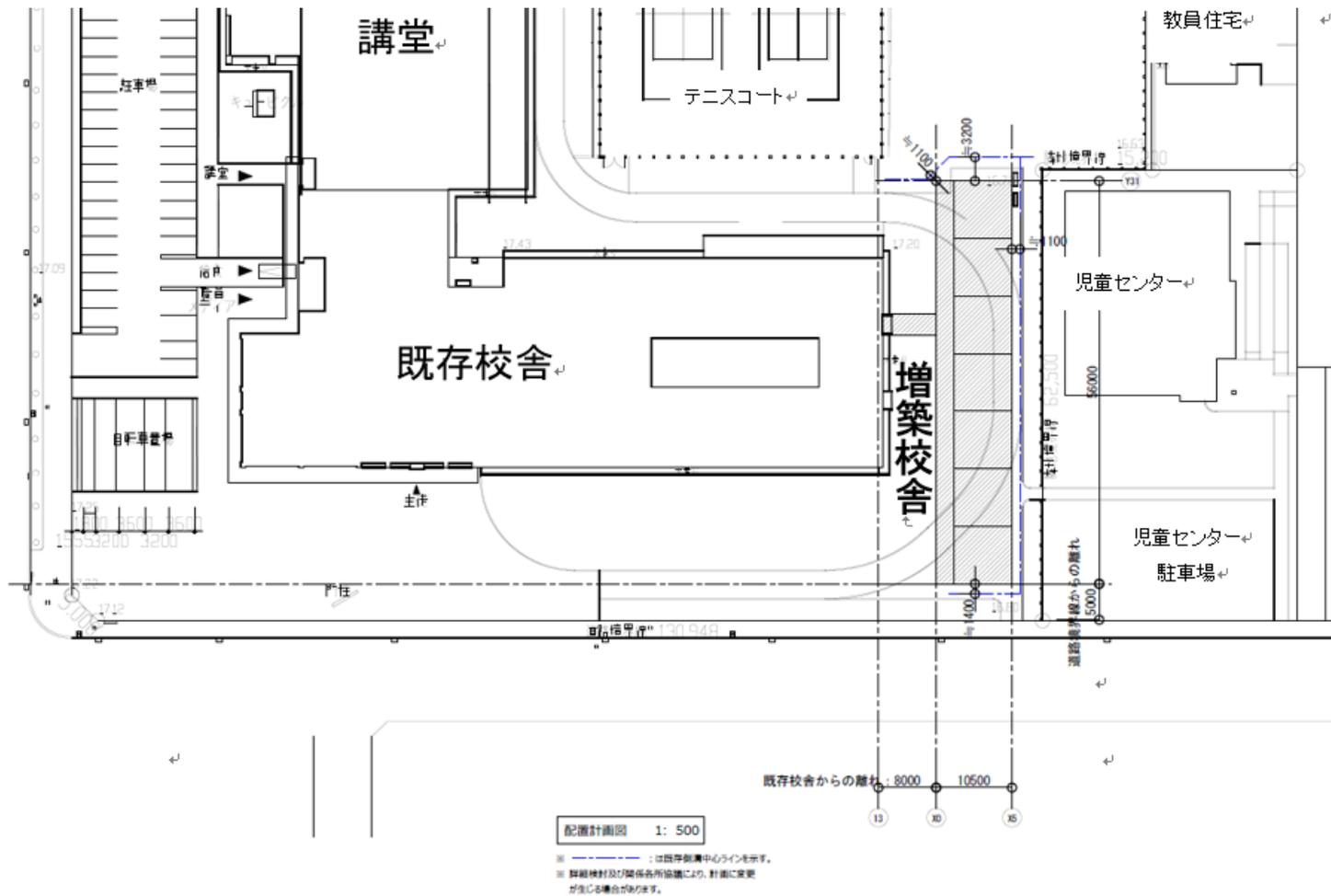


校内支援センター

増築校舎配置箇所



増築校舎配置箇所



構造規模

：プレハブ軽量鉄骨造平屋建て（耐火）、600㎡程度、6教室分、トイレ、渡り廊下

事業費

：552,031千円（上限額）

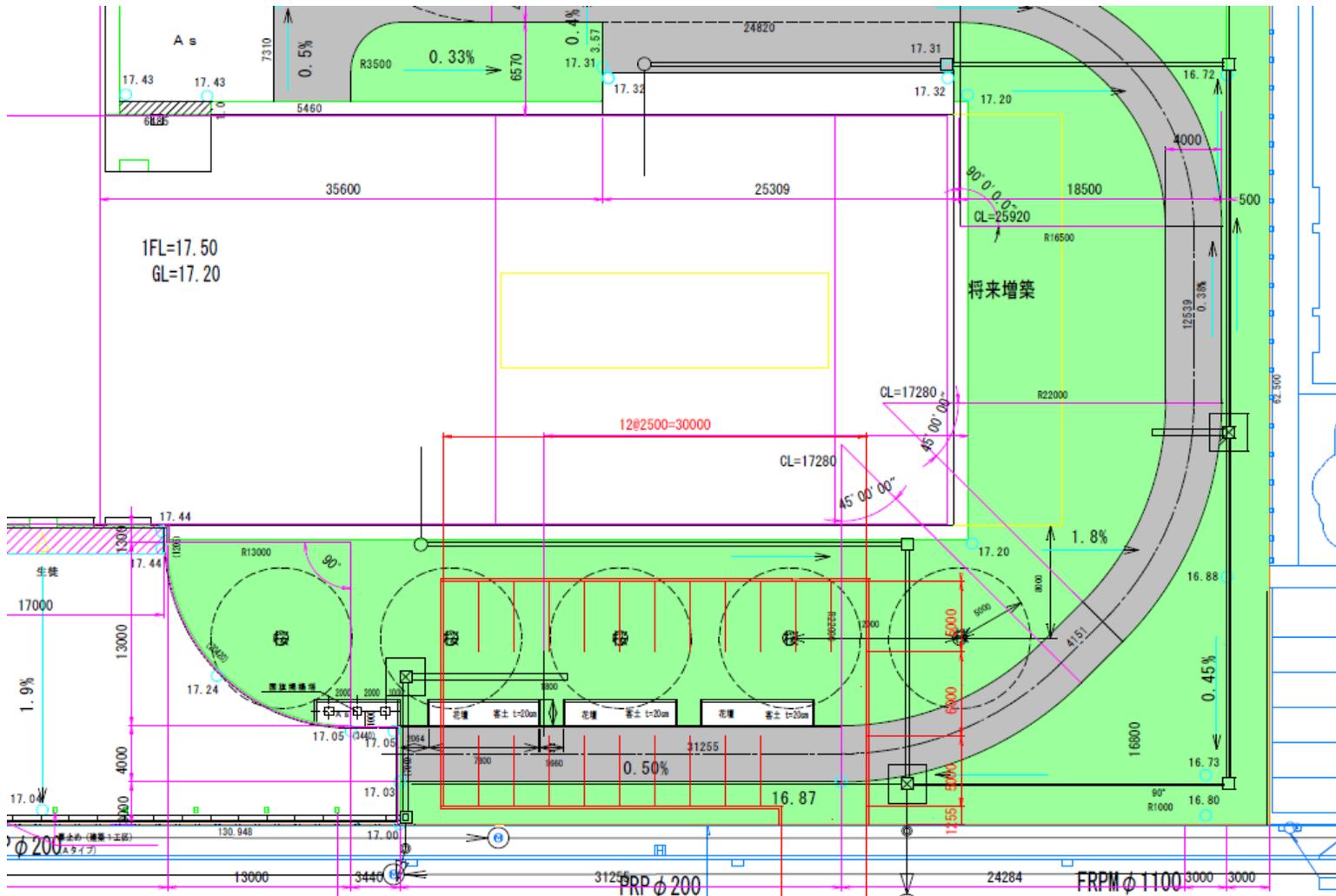
工期

：建築工事の場合は約3年間を要するが、プレハブ建築物は、1年強の期間で供用が可能

プレハブ建築物とは

：主要構造部の部材をあらかじめ工場生産・加工し、現場で組み立てる建築工法または工法で建てられた建物のことを指し、工期短縮や品質安定などの特徴がある

その他の整備関係



駐車場整備

：砂利敷、20台分

樹木移設

：中央ライオンズクラブ寄贈の桜樹木の移設

警備システム

：既存校舎との接続

備品購入費、消耗品費

：教員ロッカー、机椅子

電子黒板設置、アクセスポイント整備

既存校舎内部造作費

：保健室の移転、普通教室への転用改造、会費室の改造



勇舞中学校校舎増築事業について